

平成 30 年 5 月 31 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03268

研究課題名(和文)意思決定と空間：歴史資料の再解析による政治的空間データの構築

研究課題名(英文)Spaces and Places of Political Decision-Making

研究代表者

御厨 貴(MIKURIYA, Takashi)

東京大学・先端科学技術研究センター・客員教授

研究者番号：00092338

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、オーラル・ヒストリー記録や日記資料等を空間的制約という観点から再分析し、意思決定プロセスやコミュニケーション経路に空間が果たす役割を同定することを目指した。その成果として、第1に、政治史から現代政治行政分析まで広く、空間と政治という視角が有用であることを把握した。第2に、オーラル・ヒストリーの方法という点でも、空間情報による拡張の可能性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to re-analyze oral history records and diary materials from the viewpoint of spatial constraints and to identify the role played by space and place in the decision making process and communication path. As a result, firstly, it indicates that the viewpoints of space and place are useful in political history, contemporary political analysis and public administration study. Secondly, it suggested that the method of oral history improves by spatial information.

研究分野：日本政治史

キーワード：日本政治 政治史 オーラル・ヒストリー 空間

## 1. 研究開始当初の背景

およそあらゆる政治的活動は、多かれ少なかれ時間的・空間的な制約の中で行われる。実際、時間については、近年、制度発展における時間・タイミングの重要性への注目が集まり、それらを枠組みに入れることによって政治分析の精緻化が飛躍的に向上しつつある。しかしながら他方で、空間的制約とその機能についての政治学的解明が十分になされてきたとは言いがたい。確かに、政治(思想)史的な研究として「視覚」の権力的機能に着目した研究や、行政学の観点から日本の行政組織の空間的特質として「大部屋主義」を抽出した成果が存在するが、これらの研究は、政治過程の分析を直接の対象とはしていない問題がある。

この点、研究代表者(御厨)は、政治史と建築史の知見を組み合わせるアプローチにより、国レベルでの政治過程における空間の機能に着目し、政治的建造物のみならず、政治家の私邸や別邸をも視野に入れたフィールドワークを精力的に実施し、内部状況の発掘につとめてきた。またこれを足がかりとして、政治学・行政学のみならず、建築研究者も交えた共同研究を組織して萌芽的な実証研究を行ったところ、国レベルだけでなく自治体レベルにも多くの事例が存在すること、庁舎配置や内部導線の政治的機能に関する興味深い論点が多数存在すること、しかもその解明に資する実証研究に必要なデータや資料が広範かつ豊富に存在することが判明した。しかしその一方で本格的な研究展開にあたっては、なにより空間的情報があまりにも断片的な現状を打開し、良質なデータを整備することが急務であることも痛感した。

## 2. 研究の目的

そこで本研究は、以上の成果を踏まえ、空間政治への研究蓄積のある政治史研究者と行政研究者が協働することによって、現存する資史料群を空間政治の観点から再解析することを目的とする。

もっとも、時間的データとは異なり、建物の位置や執務室の内部配置といった空間情報はきわめて断片的に記録されているという特質をもつ。それゆえ、本研究では、これまで研究代表者・研究分担者が個々に收集整理してきたものを共有する作業を行うことに加えて、行政が公開している情報、建築の観点から整理されている情報、日記・回顧録・オーラル・ヒストリー等の歴史資料を複合的に活用する方策も合わせて検討する。

こうした作業を通じて、現時点での、空間と政治に関する知見の到達点を確認し、可能な限りの体系化を目指す。

## 3. 研究の方法

以上の目的を達成するため、次のような方

法で個人研究と共同研究を組み合わせることにより、研究を進めた。

(1) 研究代表者・分担者がこれまで蓄積してきた知見や関係する資史料を基盤として、空間情報と政治・行政研究への接合を意識した研究を推進する。

それと並行して、これまで研究代表者が中心となって先駆的に構築してきた空間と政治に関する知見や方法論についても批判的検討を加えて、さらなる堅固なものへと彫琢する。

(2) 戦前を中心に政治史研究で用いられる定番の日記史料、戦後になると政治家や行政官による回顧録、さらに現代では、研究代表者・研究分担者も継続的に行っているオーラル・ヒストリーによる談話記録といった資史料群には、空間に関する記録・記述が濃淡の差はあれ散見されることから、空間に関する記述を抽出して再解析する(読み返す)研究会を開催し、情報の共有を行う。この作業を通じて、単に空間的情報としてではなく、政治過程との連関の中で、政治家や行政官の導線やコミュニケーションの経路を同定していく。

(3) 研究を進めるにあたっては、関連分野の研究者を招聘した共同研究会やシンポジウム等を適宜開催する。これにより、学際的な議論を行うよう務め、広い視野から空間と政治を位置づけることよはかる。

## 4. 研究成果

(1) 研究代表者である御厨は、第1に、これまでの研究と本研究での成果を盛り込んだ教材(『権力の館を考える』・『公共政策』)を刊行した。前者では、首相官邸や首相の私邸に着目してその内部配置や空間的距離がもたらした権力作用の断面を照射することを試みた。後者では、開発政治・国土計画といったいずれも空間と密接に関係するテーマについて、これまでの蓄積を踏まえつつも新しい切り口で議論を展開し、本研究の成果を活かした内容・構成にした。

第2に、これまでの研究業績を批判的に検討する作業を多方面で展開した。ひとつには、研究分担者その他の研究者とのシンポジウムを開催し、その成果を出版した(後述)。また、雑誌『文学界』において、自伝的に回顧し今後の可能性を探究する連載を行った。いずれの試みでも空間と政治について、言及され論点として提示しえたことは大きな収穫と考えている。

研究分担者の個人研究では、例えば、選挙区割り(清水)や住宅政策(砂原)といった幅広い観点から、国際学会報告や研究論文などのかたちでいくつかの実績をあげることができた。

(2) 共同研究の面では、オーラル・ヒストリー記録解析を中心に再分析作業を進めたことが実績の柱をなしている。具体的には、第2年度となる平成28年度において、概ね隔月で年間6回研究会を開催し、本研究課題の研究代表者・研究分担者を中心に、現代政治や日本政治史に関係する研究者も交えて、オーラル・ヒストリーを再評価・再分析する作業を行った。そこでは、オーラル・ヒストリーが体しつつある古典として価値の問題(御厨)、オーラル・ヒストリーで明らかになる情報の性質の変容(牧原)、方法論的展開の可能性(清水)、行政改革を例にしたオーラル・ヒストリーの対比的活用(砂原)、質問資料作成時における空間情報の利活用(手塚)といったことが検討された。

これらの成果については、平成30年中の刊行を予定し、本研究期間内に原稿のとりまとめを行った。

(3) 学際的な研究の推進としては、第1に、上述したシンポジウムの開催がある(平成29年7月1日、東京大学)。ここでは、研究代表者である御厨の研究業績と研究遍歴を補助線として批判的な議論が展開されるとともに、発言等を収録した記録を発刊した(『御厨政治史学とは何か』)。

第2に、オーラル・ヒストリーの研究集会(平成28年3月5日・平成29年4月8日・平成30年3月10日の計3回)に参加し、意思決定と空間という観点も含めて、オーラル・ヒストリーの蓄積と戦後政治行政研究の深化について話題提供を行うと(清水・小宮)とともに、行政資料調査等についての成果およびノウハウの共有をはかった(手塚)。

第3に、研究分担者である牧原が中心となって「権力と公共空間の相互作用」に関する研究会(共催)を適時開催し、研究分担者以外にも政治史や社会教育学といった関連分野の研究者を招いて学際的な議論を行った。テーマも議事堂・公会堂・庁舎などの公共建築のほか、水道といったインフラにも射程を拡げたものとする中で、現行の研究水準を確認するのみならず、理論的視角の検討を進めることができた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

### 〔雑誌論文〕(計5件)

御厨貴, 御厨流政治道場(第8回)ブラミクリ: 「権力の館」をゆく, 文學界, 査読無, 71(12), 2017, 124~127ページ

御厨貴, 「天皇退位」有識者会議の内実,

文藝春秋, 査読無, 95(7), 2017, 172~180ページ

清水唯一朗, 日本の選挙区はどう作られたのか: 空間的政治制度の始点を考える, 年報政治学, 査読無, 2016(2), 2016, 13~36ページ

御厨貴, 政界人物評論・今昔物語, 学会報, 査読無, 2016(1), 2016, 31~39ページ

砂原庸介, 選挙区割りとは地方政治, 阪大法学, 査読無, 65(2), 2015, 509~535ページ

### 〔学会発表〕(計3件)

御厨貴(進行), オーラル・ヒストリーの諸相, 第1回オーラル・ヒストリーの集い, 2016年3月5日, 東京大学

牧原出(進行)・清水唯一朗・小宮京, 2010年代のオーラル・ヒストリー, 第1回オーラル・ヒストリーの集い, 2016年3月5日, 東京大学

手塚洋輔(進行), オーラル・ヒストリーの方法, 第1回オーラル・ヒストリーの集い, 2016年3月5日, 東京大学

### 〔図書〕(計14件)

大森政輔・牧原出, 岩波書店, 法の番人として生きる, 2018, 340ページ

御厨貴・手塚洋輔ほか, 吉田書店, 御厨政治史学とは何か, 2017, 147ページ

御厨貴, 吉田書店, 明治史論集, 2017, 575ページ

御厨貴, 文藝春秋社, 政党政治はなぜ自滅したのか?, 2017, 176ページ

糠塚康江・牧原出ほか, ナカニシヤ出版, 代表制民主主義を再考する, 2017, 348ページ

御厨貴・阿川尚之・苅部直・牧原出, 中央公論新社, 舞台をまわす, 舞台がまわる: 山崎正和オーラルヒストリー, 2017, 363ページ

御厨貴・砂原庸介・手塚洋輔ほか, 放送大学教育振興会, 公共政策, 2017, 282ページ

御厨貴, 左右社, 戦前史のダイナミズム, 2016, 240ページ

御厨貴, ちくま文庫, 後藤田正晴と矢口洪一, 2016, 302ページ

御厨貴, ちくま文庫, 宮澤喜一と竹下登, 2016, 280ページ

御厨貴・牧原出・砂原庸介・手塚洋輔ほか, ミネルヴァ書房, 大震災復興過程の政策比較分析: 関東、阪神・淡路、東日本三大震災の検証, 2016, 280ページ

御厨貴・芹川洋一, 日本経済新聞出版社, 政治が危ない, 2016, 240ページ

御厨貴, 放送大学教育振興会, 権力の館

を考える, 2016, 354 ページ  
小宮京 (分担執筆), 吉田書店, 自民党  
政治の源流, 2015, 355 ページ

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

御厨 貴 (MIKURIYA, Takashi)  
東京大学・先端科学技術研究センター  
・客員教授  
研究者番号: 00092338

### (2) 研究分担者

牧原 出 (MAKIHARA, Izuru)  
東京大学・先端科学技術研究センター  
・教授  
研究者番号: 00238891

清水 唯一朗 (SHIMIZU, Yuichiro)  
慶應義塾大学・総合政策学部・教授  
研究者番号: 70361673

小宮 京 (KOMIYA, Hitoshi)  
青山学院大学・文学部・准教授  
研究者番号: 80451764

手塚 洋輔 (TEZUKA, Yosuke)  
大阪市立大学・大学院法学研究科・教授  
研究者番号: 60376671

砂原 庸介 (SUNAHARA, Yosuke)  
神戸大学・大学院法学研究科・教授  
研究者番号: 40549680